

〔論 説〕

孔子の倫理哲学論（2）
— 道徳論を中心として —

浅 井 茂 紀

目 次

I 序 論

II 本 論

第1節 孔子の自

第2節 孔子の己

第3節 孔子の教

第4節 孔子の論

第5節 孔子の朋友

III 結 論

I 序 論

論者は、「孔子の倫理哲学論（2）—道徳論を中心として—」と題して論説する。その目次は前記の如しである。そして、「孔子の倫理哲学論（2）」（以下、この論文では先のサブ・タイトルは時に省略する）の項目や内容の説明や記述はもとよりのこと、且つ、カントの『純粋理性批判』での「哲学する」(philosophieren)⁽¹⁾ことや異文化で、宗教上のイエス・キリスト (Jesus Christ) の「悲しむ者は幸いです。その人は慰められるからです。」(マタイ, 5—4)⁽²⁾, とあるキリスト教の根本的原理である「愛」(agapè), これらの認識や意識においても、この論文は、「孔子の倫理哲学論（2）」と題して考察することも可能であろう。

論者は、「孔子の倫理哲学論（1）—道徳論を中心として—」⁽³⁾, 「孔子の道徳哲学論—四徳（仁、義、礼、知）論を中心として—」⁽⁴⁾, 「孟子の良心哲学論—良知良能と関連して—」⁽⁵⁾, などの論説でも、すでに儒教や儒学、孔子や孟子の哲学について多少なりともリサーチ (researches) を実践してきた。従って、今回もそれらのシリーズ (series) として記述する。今回のこの論説は、以前のその「孔子の倫理哲学論（1）」の続きでもあり関連する。最初に、

1. 孔子の自について、自とは何かを問題にする。孔子において、「自」の概念は、「自ら」、「自分」という意味が基本的に思考されよう。しかし、それだけでなく、「自」を「より」などとみなす文章もあり、これも重要と言えよう。
2. 孔子の己について、己とは何かを問題にする。孔子における「己」でも、自分や自分自身という意味が考えられる。それは、正に、自己の意義でもあると言えよう。
3. 孔子の教について、教とは何かを問題にする。孔子における「教」とは、「教え」の意味であろうが、しかし、「教育」という熟語は見当たらない。この「教育」の漢字・熟語は、亜聖・孟子 (Mencius, 372—289B. C.) の言葉である。ところで、孔子の『論語』では、「誨」、さとしおしえるという意義の言語も見当たる。
4. 孔子の論について、論とは何かを問題にする。孔子における「論」は、言論や討論の意味が思考されよう。なお、孔子の正当派である孟子の「論」では、「尚論」などという言語も存在すると言えよう。
5. 孔子の朋友について、朋友とは何かを問題にする。孔子における「朋友」は、友達や

(1) Immanuel Kant, *Kritik der reinen Vernunft*, Verlag von Felix Meiner in Hamburg, 1956, A837, B865—A838, B866, S.752—753.

カント『純粋理性批判』(下) 篠田英雄訳, 岩波書店, 昭和41年, 128 ページ, 参照。

(2) 新改訳聖書刊行会『新約聖書, *The New Testament*』(英和対照) 日本聖書刊行会, 昭和52年, 9 ページ。

“Blessed are those who mourn, for they shall be comforted. (Matthew, 5-4).”

(3) 拙稿「孔子の倫理哲学論（1）—道徳論を中心として—」(論説)『千葉商大紀要』第43巻第3号, 千葉商科大学国府台学会, 2005(平成17)年12月31日発行, 83-99ページ。

(4) 拙稿「孔子の道徳哲学論—四徳（仁、義、礼、知）論を中心として—」(論説)『千葉商大紀要』第42巻第3号, 千葉商科大学国府台学会, 2004(平成16)年12月31日発行, 1-15ページ。

(5) 拙稿「孟子の良心哲学論—良知良能と関連して—」(論説)『千葉商大紀要』第41巻第3号, 千葉商科大学国府台学会, 2003(平成15)年12月31日発行, 21-37ページ。

友人が考えられよう。さらに、往々にして、孔子の弟子達も「朋友」を使用しているが、彼の弟子達の「朋友」とは何かも問題になろう。また、性善説の孟子にも、この「朋友」の言葉が記述されているので多少触れてみよう。

斯くして、中国の春秋時代、聖人・孔子（Confucius, 552/551—479B. C.）は、何故それら自、己、教、論、さらに、朋友などの倫理（Ethics; Ethik; éthique）や道徳哲学（moral philosophy）を主張したのかも問題にしてみたい。これら孔子の倫理的な哲学（Ethical philosophy）は、人間としての基本的な理念（Idee）ではなかろうかと、論者は考えるのである。

次に、Ⅱ 本論 第1節 孔子の自から説明する。

Ⅱ 本 論

第1節 孔子の自

孔子の自、すなわち、孔子の言う自とは何かを問題にしてみる。まず、
□□子曰く、賢を見ては、齋（ひとし）からんことを思い、不賢を見ては内に自ら省（かえり）みるなり。（里仁4）、（傍点筆者）⁽⁶⁾。

孔子が言う、自己よりも知徳の優れた賢人を見ては、自分もそのような人物になろうと思ひ、つまらぬ人を見ては、自分もこのようではないかと内心で反省する⁽⁷⁾、と。ここで、孔子における「自」（ourselves）は、「自ら」、すなわち、「自分」や「自分自身」という意味である。なお、『論語』では、「自」の漢字が含まれる文章は多数存在するが、「自分」とか、「自己」といった漢字の熟語は見当たらない。先の里仁第4と関連して、
□□「三人行けば、必ず我が師有り。」（述而7）⁽⁸⁾、とも言われるが、自分のほかの二人の中の倫理、道徳的な善人を選んで自己の善を進め、不善なる者に鑑みて自己の不善を改善する、ということと多少類似があろう。

□□子曰く、躬自ら厚くして、薄く人を責めれば、則ち怨（うらみ）みに遠ざかる。（衛靈公15）、（傍点筆者）⁽⁹⁾。

孔子が言う、自ら己を責めることが厳しく厚いならば、己の身は益々修まり、人を責めることが薄く寛大であれば、人を怨むこともなく、人から怨まれることもなくなる。躬とは、みずからの意味。この「自」も自らということで、「自分」の意味である。

□□子曰く、已（やん）ぬるかな、吾未だ能く其の過ちを見て、内に自ら訟（せ）める者を見ざるなりと。（公冶長5）、（傍点筆者）⁽¹⁰⁾。

(6) 子曰、見賢思齊焉、見不賢而内自省也。（里仁4）、（傍点筆者）。

宋朱子（朱熹）集註『四書集註』香港太平書局、1964年、論語卷之二、里仁第四、23ページ。宋朱子（朱熹）集註『四書集註』台湾中華書局、中華民國66年、論語卷二、里仁第四、11ページ。

慧豊學會『漢文大系』（一）、新文豊出版公司、中華民國83年、論語集説、卷二、里仁第四、11ページ。四部叢刊經部。『漢文大系』壹（大學説、中庸説、論語集説、孟子定本）、富山房、明治43年、論語集説、卷二、里仁第四、11ページ。

(7) 吉田賢抗『論語』（新釈漢文大系、第1巻）明治書院、昭和35年、96ページ。

(8) 子曰、三人行、必有我師焉。（述而7）。

(9) 子曰、躬自厚、而薄責於人、則遠怨矣。（衛靈公15）、（傍点筆者）。

孔子が言う、ああ、なんとも仕方のないことで、もうだめだ。われは未だ他人が自分の過失を見て、自分の内心で自分を責めているような、自責の念の強い人を見たことがない。この「自」も「自ら」ということで、「自分」の意味である。なお、「自」(from)が起点を示す「より」(従)や「から」という意義も8節程ある。その2節を挙げておく。

□□朋、遠方自り來る有り、亦樂しからずや。(学而1)、(傍点筆者)⁽¹¹⁾。

□□古(いにしえ)自り皆死有り。民信無くば立たずと。(顔淵12)、(傍点筆者)⁽¹²⁾。

次に、孟子における「自」について、同じく2種類程の意義が存在する。

□□孟子曰く、自ら暴(そこな)う者は、與(とも)に言う有る可からざるなり。自ら棄てる者は、與に爲す有る可からざるなり。言、禮義を非(そし)る、之を自暴と謂う。吾が身、仁に居り義に由ること能はざる、之を自棄と謂う。(離婁上)⁽¹³⁾。

自暴、自棄の出典の中に、「自」が存在して、この「自」も「自ら」ということで、「自分」の意味である。さらに、「より」の意義も有る。

□□生民自り以來、未だ孔子より盛んなるは有らざるなり、と。(公孫丑上)⁽¹⁴⁾。

ゆえに、孔子の自では、「不賢を見ては内に自ら省みるなり。」(里仁4)などにより、「自ら」、すなわち、「自分」や「自分自身」という意味で多数ある。さらに、「自」を「より」という意義も8節程ある。次に、孟子でも、「自」が存在して、この「自」も「自ら」ということで、「自分」の意味であり、「自」の「より」という意義もあると、論者は思考するのである。

第2節 孔子の己

孔子の己、すなわち、孔子の言う己とは何かを問題にしてみる。まず、

□□子曰く、君子重からざれば則ち威あらず。學べば則ち固ならず。忠信を主とし、己に如(し)かざる者を友とすること無かれ。過ちては則ち改めるに憚(はばか)ること勿かれ。(学而1)、(傍点筆者)⁽¹⁵⁾。

孔子は、この己について、自分より劣った者を友や仲間とし、わがまま勝手な行動をしないようにして、過失があったら、面目などにこだわらずに、速やかに改善するがよい、と言う。孔子におけるこの「己」(yourself)は、「自分」という意味である。

□□子、子産を謂う、君子の道四あり。其の己を行うや恭なり。其の上に事えるや敬なり。其の民を養うや恵なり。其の民を使うや義なり。(公冶長5)、(傍点筆者)⁽¹⁶⁾。

孔子が、子産(鄭の大夫)の批評をした。彼には、君子の道が四つ具備されている。そ

(10) 子曰、已矣乎、吾未見能見其過、而内自訟者也。(公冶長5)、(傍点筆者)。

(11) 子曰、學而時習之、不亦說乎。有朋自遠方來、不亦樂乎。人不知而不慍、不亦君子乎。(学而1)、(傍点筆者)。

(12) 自古皆有死。民無信不立。(顔淵12)。

(13) 孟子曰、自暴者、不可與有言也。自棄者、不可與有爲也。言非禮義、謂之自暴也。吾身不能居仁由義、謂之自棄也。(離婁上)。

この自暴、自棄における自暴とは、自分で自分の身を損なうことであり、自棄とは、自分で自分の身を捨てて顧みないことの意味である。

(14) 自生民以來、未有盛於孔子也。(公孫丑上)。

(15) 子曰、君子不重則不威。學則不固。主忠信、無友不如己者。過則勿憚改。(学而1)。

(16) 子謂子産、有君子之道四焉。其行己也恭。其事上也敬。其養民也惠。其使民也義。(公冶長5)。

の一つとして、自分の身を持する行為や態度が実にうやうやしい、ということであるとしている。この「己」(himself)も、「自分」の意味であろう。

□□其れ仁者は己立たんと欲して人を立て、己達せんと欲して人を達す。(雍也6)，(傍点筆者)⁽¹⁷⁾。

聖人・孔子は、仁者は自分が立ちたいと欲する時には、まず他人を立たしめる。自分が到達したいと欲する時には、まず他人を到達させる、という発想である。これらの「己」(himself)も自分の意味である。

なお、この節は、キリスト教の黄金律、「人にしてもらいたいと思うことは何でも、あなたがたも人にしなさい。」(マタイ、7—12)⁽¹⁸⁾と多少類似点があろう。

□□顔淵仁を問う。子曰く、己に克ちて禮に復するを仁と爲す。一日己に克ちて禮に復すれば、天下仁に歸す。(顔淵12)，(傍点筆者)⁽¹⁹⁾。孔子は、顔淵(顔回)の仁の質問に対して、克己復礼を仁と爲す、と言う。己(one's self)，すなわち、自分自身の身勝手に打ち勝ち、最善の礼法を実践することが仁であると答えている。

□□己の欲せざる所は、人に施すこと勿れ。(顔淵12，衛靈公15)，(傍点筆者)⁽²⁰⁾。

孔子は、自分がしてほしくないと思うようなことは、他人にしむけてはならない、という配慮である。この「己」も、「自分」の意味である。この孔子の言葉は、先のキリスト教の黄金律と相違する⁽²¹⁾。次に、亜聖・孟子の己について、

□□禍福は己より之を求めざる者無し。(公孫丑上)⁽²²⁾。

孟子は、国家観の一端で、禍福は自分からこれを求めたのでないものはないと言う。

自分の心により、禍を受けることにもなり、逆に、幸福を得ることにも成りえる。

□□己を枉(ま)げる者は、未だ能く人を直(なお)くする者有らざるなり、と。(滕[とう]文公下)⁽²³⁾。自分の信念が曲がっているような者が、人を真っ直ぐに正すことは、まだ無いのである。従って、孟子の己も「自分」という意味である。

ゆえに、孔子の己では、「己の欲せざる所は、人に施すこと勿れ。」(顔淵12，衛靈公15)などで推理できるように、孔子における「己」とは、「自分」や自分自身という意味である。まさに自己の意義である。次に、孟子における「己」でも、自分という意味であると、論者は考えるのである。

第3節 孔子の教

孔子の教、すなわち、孔子の言う教とは何かを問題にしてみる。まず、

(17) 夫仁者己欲立而立人、己欲達而達人。(雍也6)。

(18) 注(2)参照。新改訳聖書刊行会、前掲書、16ページ。

“Therefore whatever you want others to do for you, do so for them; (Matthew, 7—12), 並びに、拙著『哲学要論』、高文堂出版社、2002(平成14)年4月1日、51ページ。

(19) 顔淵問仁。子曰、克己復禮爲仁。一日克己復禮、天下歸仁焉。(顔淵12)。

(20) 己所不欲、勿施於人。(顔淵12，衛靈公15)。

(21) 先のキリスト教の黄金律に対して、はるか以前、対照的に、儒教・儒学の祖・孔子は、「己の欲せざる所は、人に施すこと勿れ。」と、『論語』顔淵12と衛靈公15の2節で述べている。

(22) 禍福無不自己求之者。(公孫丑上)。

(23) 枉己者、未有能直人者也。(滕[とう]文公下)。

□□善を擧げて不能を教えれば則ち勸（すす）むと。（為政2），（傍点筆者）⁽²⁴⁾。

孔子は、この教について、善行の者は擧げて賞賛し、無能の者は教えれば民はその仕事に精励する⁽²⁵⁾、と配慮する。孔子における「教」（teach）は、「教え」という意味である。

□□子四を以て教える。文・行・忠・信。（述而7），（傍点筆者）⁽²⁶⁾。

聖人・孔子は、四つの教授要目、シラバス（syllabus）で以て教えた。古典の講義などの学問、徳（ethics）の実行、誠実、人を欺かない信義を弟子達に教えた（taught）のである。

□□子曰く、教え有りて類無し。（衛霊公15），（傍点筆者）⁽²⁷⁾。

孔子は言う、人間は「教」（teaching）、すなわち、教えによって善とも悪ともなるが、最初から善人や悪人、賢や愚などの種類としての差はない。

□□子曰く、教えずして殺す、之を虐と謂う。（堯曰20）⁽²⁸⁾。

孔子は言う、君子が民の為すべきことと、為すべからざることを教えずして、罪を犯したとしてこれを殺すのを虐、つまり、残虐という。なお、孔子は、四悪として虐、暴、賊、吝の四つを擧げて否定している。従って、孔子のこれらの「教」も、教えの意味である。『論語』には教育の熟語は無い。但、孔子には、おしえとして、誨の漢字も存在する。

□□子曰く、由（ゆう）、女（なんじ）に之を知るを誨えんか。之を知るを之を知ると爲し、知らざるを知らずと爲せ。是れ知るなり。（為政2），（傍点筆者）⁽²⁹⁾。

孔子の知は、知と不知との明確な区別の認識である。この誨（かい）とは、あきらかにおしえる。さとしおしえるという意義である。

次に、亜聖・孟子の教えや教育について、

□□孔子曰く、聖は則ち吾能はず。我は學びて厭わず、教えて倦まざるなり、と。（公孫丑上）⁽³⁰⁾。

□□孟子曰く、君子に三樂有り。而して天下に王たるは、與（あずか）り存せず。父母俱に存し、兄弟故無きは、一の楽しみなり。

仰ぎて天に愧（は）じず、俯して人に忤（は）じざるは、二の楽しみなり。

天下の英才を得て、之を教育するは、三の楽しみなり。（尽心上），（傍点筆者）⁽³¹⁾。

現今も使用されている「教育」の漢字・熟語は、『孟子』書のこの節の出典に拠る。それは、孟子における「君子の三樂」の中の「天下の英才を得て、之を教育するは、三の楽しみなり。」（『孟子』尽心上）に根拠があり、孟子の独創である⁽³²⁾。

(24) 擧善而教不能則勸。（為政2），（傍点筆者）。

(25) 注（7）参照。吉田賢抗，前掲書，53ページ。

(26) 子以四教。文・行・忠・信。（述而7）。

(27) 子曰，有教無類。（衛霊公15）。

(28) 子曰，不教而殺，謂之虐。（堯曰20）。

(29) 子曰，由，誨女知之乎。知之爲知之，不知爲不知。是知也。（為政2）。

孔子の「知と不知」の区別の認識とソクラテス（Sōkratēs; Socrates, 470/469—399B. C.）の「無知の知」（wisdom of ignorance）との相違点でもある。

(30) 孔子曰，聖則吾不能。我學不厭，而教不倦也。（公孫丑上）。

(31) 孟子曰，君子有三樂。而王天下，不與存焉。父母俱存，兄弟無故，一樂也。

仰不愧〔はじ〕於天，俯不忤〔はじ〕於人，二樂也。

得天下英才，而教育之，三樂也。

君子有三樂。而王天下，不與存焉。（尽心上），（傍点筆者）。

□□庠序學校を設け爲して、以て之を教える。庠とは養なり。校とは教なり。序とは射なり。(滕[とう]文公上)⁽³²⁾。この節に抛り、孟子が、「学校」の言葉の創始者でもあることが明晰判明である。従って、孟子の「教」も教えであり、教育の本義もある。

ゆえに、孔子の教では、「子四を以て教える。文・行・忠・信。」(述而7)などにより、孔子における「教」は、教えの意味である。さらに、誨(かい)、さとしおしえるという意義もある。次に、孟子における「教」も教えである。また、教育の本義も存在する。孟子が、現今の「教育」や「学校」の言葉の創始者であると、論者は考えるのである。

第4節 孔子の論

孔子の論、すなわち、孔子の言う論とは何かを問題にしてみる。まず、
□□子曰く、論の篤(あつ)きに是れ與(くみ)せば、君子者か、色莊者(しよくそうしゃ)か。(先進11)、(傍点筆者)⁽³⁴⁾。

孔子が言う、論、すなわち、言論のもっともらしさのみを信じて、これに賛成すると、その人が果たして本当に道德の修まった君子人であるか、もしくは、表面だけ容貌や言説を莊重に飾る者であるか、判別しがたい⁽³⁵⁾。

孔子におけるこの「論」(discourse)は、「言論」の意味であろう。孔子の『論語』では、「論」の単語はこの1節位しかない。但、「討論」の熟語については次の記載が存在する。

□□子曰く、命を爲(つく)るに、裨諶(ひじん)之を草創し、世叔之を討論し、行人子羽之を脩飾し、東里の子産之を潤色す。(憲問14)、(傍点筆者)⁽³⁶⁾。

孔子が言う、鄭国で国交の外交文書を作成するのを見ると、大夫で知謀の裨諶(ひじん)が草案を作り、大夫で博学の世叔が、討論(examined and discussed)、つまり、典礼を研究し、道理で以て、草案を検討し論じ、行人、すなわち、使者の子羽が添削を加味し修飾して、最後に、東里に住んでいた子産が文彩のあや、うるおいをつけて作り上げるのである。国交文書はこのようにして出来ていたので、諸侯に應對しても失敗がなかった。この討論とは、故事を調べ、典礼を研究し、道理で以て、草案を検討し論じることの意味である。

孔子の『論語』では、この「討論」の熟語はこの憲問14の1節程しかない。従って、孔子の「論」は、言論や討論、つまり、草案などを検討し論じることの意味である。

次に、孟子の「論」は、「尚論」や「論ず」で、万章下の1節中の2つである。

□□天下の善士を友とするを以て、未だ足らずと爲すや、又古の人を尚論す。其の詩を頌(しょう)し、其の書を讀むも、其の人を知らずして可ならんや。是を以て其の世を論ず。是れ尚友なり、と。(万章下)、(傍点筆者)⁽³⁷⁾。

(32) 拙著『教育哲学要論』、高文堂出版社、2002(平成14)年4月1日、14ページ。

(33) 設爲庠序學校、以教之。庠者養也。校者教也。序者射也。(滕[とう]文公上)、(傍点筆者)。注(32)参照。拙著、前掲書(『教育哲学要論』)、24ページ。

(34) 子曰、論篤是與、君子者乎、色莊者乎。(先進11)。

(35) 注(7)参照。吉田賢抗、前掲書、243ページ。

(36) 子曰、爲命、裨諶草創之、世叔討論之、行人子羽脩飾之、東里子産潤色之。(憲問14)、(傍点筆者)。

孟子は、弟子の万章に対して、「一天下中の善士を友とすることで、まだ満足が出来ない時には、又さかのぼって古の人を尚論、すなわち、論及して、それらを友とする。古人の詩を吟唱し、古人の書を読むにあたって、その作者の人柄を知らないで可能であろうか。それ故にその古人の活躍した時代を論じて明らかにする。これが尚友、すなわち、古に遡及して古人を友とするということである。」と。

孟子の「論」は、尚論、すなわち、論及とか、「論ず」、すなわち、論じて明らかにする意味である。

ゆえに、孔子の論では、「子曰く、論の篤きに是れ與せば、君子者か、色莊者か。」(先進11) などとあるように、孔子における「論」は、言論や討論、検討して論じることの意味である。次に、孟子における「論」では、「又古の人を尚論す」や「是を以て其の世を論ず。是れ尚友なり。」(万章下) などとあるように、「尚論」、すなわち、論及とか、「論ず」、すなわち、論じて明らかにする意義であると、論者は考えるのである。

第5節 孔子の朋友

孔子の朋友、すなわち、孔子の言う朋友とは何かを問題にしてみる。まず、
□□子曰く、老者は之を安んぜしめ、朋友は之を信ぜしめ、少者は之を懐かしめんと。
(公冶長5)，(傍点筆者)⁽³⁸⁾。

孔子が言う、老人は安心させてやりたい。友人は信用し合いたい。若者からは懐かれたい、と。この朋友 (friends)⁽³⁹⁾は、友人の意味である。

□□子路問うて曰く、何如なるを斯(ここ)に之を士と謂う可きかと。子曰く、切切惓惓怡怡如(せつせつしいいじょ)たるを、士と謂う可し。朋友には切切惓惓たり、兄弟には怡怡たりと。(子路13)，(傍点筆者)⁽⁴⁰⁾。

子路が、「どういふのを士と申すことができますか」と質問した。孔子が言うには、「切切として懇切に善を責め合い、惓惓として激励し合い、怡怡として和樂し合うのが、士というものだ。それは、朋友、すなわち、友達の間は、切嗟勉勵が大切で、兄弟の間は、和順が大切になる。」と⁽⁴¹⁾。

(37) 以友天下之善士，爲未足，又尚論古之人。頌其詩，讀其書，不知其人可乎。是以論其世也。是尚友也。(万章下)，(傍点筆者)。

(38) 子曰、老者安之、朋友信之、少者懷之。(公冶長5)，(傍点筆者)。

(39) James Legge, *THE CHINESE CLASSICS, CONFUCIAN ANALECTS, THE GREAT LEARNING, THE DOCTRINE OF THE MEAN, THE WORKS OF MENCIUS*, Southern Materials Center, Inc., Taipei, 1985, p.183.

なお、レグは、この書 (*THE CHINESE CLASSICS*) の『論語』において、

「自」は、ourselves, himself; from,

「己」は、yourself, himself, one's self,

「教」は、teach, taught, teaching, instructed,

「論」は、discourse, discussed,

「朋友」は、friends,

などと訳しているのである。

(40) 子路問曰、何如斯可謂之士矣。子曰、切切惓惓怡怡如也、可謂士矣。朋友切切惓惓、兄弟怡怡。(子路13)，(傍点筆者)。

この「朋友」(friends)は、友達という意義であろう。さらに、孔子において、友人との交際論としての朋友の記述がある。

□□朋友死して、歸する所無ければ、曰く、我に於いて殯(ひん)せよと。朋友の饋(き)は、車馬と雖も、祭肉に非ざれば拜せず。(郷党10)、(傍点筆者)⁽⁴²⁾。

友人が死んで、その遺骸を引き取るべき親類の無い場合は、私のところで、殯、すなわち、「かりもがり」を引き受けようと言って、棺を置かせる。友人からの饋、すなわち、贈り物は、友達の間は財産を譲り合うという礼もあるが、車馬のような高価な贈り物でも、友人のお祭りの供物であった肉以外は拝礼しない。これらの「朋友」(friends)は、友人の意味である。

従って、孔子における「朋友」に関しては、3節程『論語』に記載がある。なお、「朋」は同門、「友」は同志で、「朋友」とは、「友達」や「友人」という意味であろう。また、その他、弟子達の文章中に、この「朋友」に関して4節程存在する。

□□曾子曰く、吾日に吾が身を三省す。人の爲に謀(はか)りて忠ならざるか。朋友と交わりて信ならざるか。習わざるを傳えしかと。(学而1)、(傍点筆者)⁽⁴³⁾。

曾子は、「友達と交際して、信義に欠けたことはなかっただろうか」と述べている。この「朋友」は、友達の意味であろう。さらに、子夏の言葉にも「朋友」がある。

□□朋友と交わり、言いて信有らば、未だ學ばずと曰うと雖も、吾は必ず之を學びたりと謂わん。(学而1)⁽⁴⁴⁾。この「朋友」とは、友達の意味である。

次に、孟子の朋友に関して、

□□契をして司徒たらしめ、教えるに人倫を以てす。父子親有り、君臣義有り、夫婦別有り、長幼序有り、朋友信有り。(滕[とう]文公上)、(傍点筆者)⁽⁴⁵⁾。

孟子の人倫(五倫)上の朋友とは、友達、友人という意味である⁽⁴⁶⁾。

ゆえに、孔子の朋友では、「朋友は之を信ぜしめ、少者は之を懐かしめんと。」(公治長5)などにより、「朋友」とは、「友人」や「友達」という意味である。孔子の弟子達における「朋友」も「友達」の意義と言えよう。次に、孟子における「朋友」は、友達や友人という意味であると、論者は考えるのである。

Ⅲ 結 論 [孔子の倫理哲学論(2) —道徳論を中心として—]

[1] 孔子の自では、「不賢を見ては内に自ら省みるなり。」(里仁4)などによれば、孔子における「自」は、「自ら」、すなわち、「自分」や「自分自身」という意味で多数ある。さらに、「自」を「より」という意義も8節程存在する。

次に、孟子でも、「自」が存在して、この「自」も「自ら」ということで、「自分」の意

(41) 注(7) 参照。吉田賢抗、前掲書、297ページ。

孔子は、弟子・子路の不足するものとして、切切=懇切、惓惓=激励、怡怡=和樂の三つを述べている。

(42) 朋友死、無所歸、曰、於我殯。朋友之饋、雖車馬、非祭肉不拜。(郷党10)、(傍点筆者)。

(43) 曾子曰、吾日三省吾身。爲人謀而不忠乎。與朋友交而不信乎。傳不習乎。(学而1)、(傍点筆者)。

孔子の弟子達の文章の中に、この「朋友」に関しては4節程存在する。

(44) 與朋友交、言而有信、雖曰未學、吾必謂之學矣。(学而1)、(傍点筆者)。

(45) 使契爲司徒、教以人倫。父子有親、君臣有義、夫婦有別、長幼有序、朋友有信。(滕[とう]文公上)、(傍点筆者)。

味であり、「自」の「より」という意義もあると、論者は思考するのである。

[2] 孔子の己では、「己の欲せざる所は、人に施すこと勿れ。」(顔淵12, 衛霊公15)などで推理できるように、孔子における「己」とは、「自分」や自分自身という意味である。まさに自己の意義である。次に、孟子における「己」でも、「自分」という意味であると言えよう。

[3] 孔子の教では、「子四を以て教える。文・行・忠・信。」(述而7)などにより、孔子における「教」(teach)は、教えの意味である。さらに、誨(かい)、さとしおしえるという意義もある。次に、孟子における「教」も教えであり、教育の本義も存在する。孟子が、現今の「教育」や「学校」の言葉の創始者であると、論者は考えるのである。

[4] 孔子の論では、「子曰く、論の篤きに是れ與せば、君子者か、色莊者か。」(先進11)などとあるように、孔子における「論」(discourse)は、言論や討論、検討し論じることの意味である。次に、孟子における「論」では、「又古の人を尚論す」や「是を以て其の世を論ず。是れ尚友なり。」(万章下)などとあるように、「尚論」、すなわち、論及とか、「論ず」、すなわち、論じ明らかにすることの意義であると言えよう。

[5] 孔子の朋友では、「朋友は之を信ぜしめ、少者は之を懐かしめんと。」(公冶長5)などにより、孔子における「朋友」(friends)とは、「友人」や「友達」という意味である。孔子の弟子達における「朋友」も「友達」の意義と言えよう。次に、孟子における

(46) 拙稿「孟子の人倫哲学論—五倫について—」(論説)『千葉商大紀要』第32巻第3号、千葉商科大学国府台学会、1994(平成6)年12月30日発行、1-19ページ。

孟子においては、朋友に関して、3節程の記載が存在する。

先の「朋友有信」を含め、「非所以要譽於郷黨・朋友也。」(公孫丑上)、並びに、「責善朋友之道也。」(離婁下)等である。

翻って、日本では、宮沢賢治(1896-1933, 明治29-昭和8)、詩人でもあり、「注文の多い料理店」、「風の又三郎」や「猫の事務所」などの童話や寓話作家の場合、特に、宮沢賢治の「雨ニモマケズ、風ニモマケズ」の詩において、つまり、

「雨ニモマケズ、風ニモマケズ、雪ニモ夏ノ暑サニモマケヌ、丈夫ナカラダヲモチ、
慾[ヨク]ハナク、決シテ瞋[イカ]ラズ、イツモシツ[ズ]カニワラツテキル、
一日ニ玄米四合ト、味噌ト少シノ野菜ヲタベ、
アラユルコトヲ、ジブンヲカンジョウニ入レズニ、ヨクミキキシワカリ、ソシテワスレズ、
野原ノ松ノ林ノ蔭ノ、小サナ萱[カヤ]ブキノ小屋ニキテ、
東ニ病氣ノコドモアレバ、行ッテ看病シテヤリ、
西ニツカレタ母アレバ、行ッテソノ稲ノ束ヲ負ヒ、
南ニ死ニサウナ人アレバ、行ッテコハガラナクテモイヽトイヒ、
北ニケンクワヤ、ソシヨウガアレバ、ツマラナイカラヤメロトイヒ、
ヒデリノトキハ、ナミダヲナガシ、サムサノナツハ、オロオロアルキ、
ミンナニ、デクノボートヨバレ、ホメラレモセズ、クニモサレズ、サウイフモノニ、
ワタシハ、ナリタイ。」

(天沢退二郎編『新編・宮沢賢治詩集』(宮沢賢治詩集[心象スケッチ]春と修羅)、新潮文庫、平成8年、361ページ。

《なお、この詩の中の句読点や[]内は、便宜的に論者が為した》。

ところで、現在、賢治のこの「雨ニモマケズ、風ニモマケズ」の自筆メモされた手帳(1931年11月3日、賢治、35歳の時のメモが、岩手県花巻市、林風舎刊で復刻されて、宮沢賢治記念館にも実在)にある「デクノボー」[木偶坊]、いわば、役に立たない者が、人間関係として、さらに、朋友、すなわち、友人や友達の間においても、宮沢賢治自身の理想でもあったと言えるのではなからうか。

「朋友」は、友達や友人という意味であると、論者は思うのである。

次に、なぜ孔子は、これら自、己、教、論、さらに、朋友などの倫理、道徳を主張したのかが問題であろう。それは、古代中国、春秋時代の状況とも関連があるろう。春秋時代は、迫り来る戦国時代を控えて周の天子が没落していくプロセス (process) に位置していた⁽⁴⁷⁾。そして、そのような不安定な状況下における聖人・孔子の偉大な人格などに基づくと言えよう。孔子の国家建設のビジョンとして、これら自、己、教、論、さらに、朋友などの倫理、道徳哲学は、人間としての基本的な理念 (Idee) であり、眼目であったと、論者は考えるのである。

さらに、論者のこの論文、「孔子の倫理哲学論 (2)」では、ロゴス (logos) 的に体系化 (systematization) して、その中身を「哲学する」(philosophieren)⁽⁴⁸⁾事を試みたわけである。

よって、このような内容により、論者の「孔子の倫理哲学論 (2) —道徳論を中心として—」[Confucius' Philosophical Theory of Ethics (2) —Attaching Importance to His Theory of Morality—] の論説は、過去、現在、未来の三世に渡って、多少なりとも意義と価値があるろうかと、論者は思考するのである。

………… {2006 (平成18) 年10月2日 (月曜日), 原稿提出} ……………

(47) 注 (3) 参照。拙稿, 前掲論文, 「孔子の倫理哲学論 (1) —道徳論を中心として—」, 99ページ。つまり, 「子曰, 甚矣, 吾衰也。久矣, 吾不復夢見周公。」(述而7)。

(48) 注 (1) 参照。Immanuel Kant, *op. cit.*, A 837, B 865—A 838, B 866, S.752—753.

[抄 録]

この論説は、目次、Ⅰ序論、Ⅱ本論、第1節孔子の自、第2節孔子の己、第3節孔子の教、第4節孔子の論、第5節孔子の朋友、Ⅲ結論、から成立している論文（注付）である。孔子の自、己、教、論や朋友とは何かを問題にしてみた。それらの根拠として、儒学における『論語』や『孟子』などの出典を提示して、各々の内容を分析や総合し問題にしてみた。また、中国古代、周の春秋時代、孔子は、仁、義、礼、知、信や愛はもとよりのこと、学、道、徳、善や天だけでなく、本論では、如何に、なぜそれら自、己、教、論、さらに、朋友などの倫理（Ethics）、道德哲学（moral philosophy）を主張したのかを問題にし、吟味してみたのである。つまり、孔子の倫理哲学は、人間としての基本的な理念（Idee）ではなかろうか、ということを経（logos）的に体系付けて、その意義と価値を多少なりとも考察した論説である。